

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

平成29年度第7回 理事会 議事録

【開催日時】平成30年1月19日（金）15:30～17:30

【開催場所】ポートピアホテル神戸 南館 地下1階 「ルビー」

【出席した理事】田口 敏彦、徳橋 泰明、大川 淳、川上 守、島田 洋一、岩崎 幹季、竹下 克志、種市 洋、中村 博亮、中村 雅也、根尾 昌志、波呂 浩孝、前田 健、山崎 正志、山下 敏彦

【欠席した理事】永島 英樹

【出席した監事】加藤 文彦、松永 俊二

【議事の経過の要領及びその結果】

田口 敏彦理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

審議・決議事項

1. 10～12月の入退会

島田理事が、入退会希望者の審査結果を示し、決議を求めた。一同検討の結果、全員を承認した。

2. 旅費内規の件

大川理事が、学会業務で宿泊する際の前泊・後泊について、下記の追記を提案し、議場に諮った。

（会員の旅費計算）第4条

原則、前泊・後泊の宿泊費申請は、会議の集合や帰宅が困難な時間設定（会議が11時以前に開始、または16時以降終了）であるか JSSR の会議が複数日連続する場合、かつ他の団体からの支給がない場合に可能とする。

各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

3. データベース委員会より：委員会委員追加の件

種市理事が、データベース委員会委員として獨協医大の上田明希医師の追加を提案した。一同検討の結果承認した。

4. 英文誌編集委員会より：SSRR 発刊事業の次年度予算について

根尾理事が、SSRR の投稿数が予想を上回り、50 論文としていた契約を 150 論文としたため次年度の SSRR 関連の予算が膨らんでいることを説明した。山崎財務理事が、英文誌関連では初年度からの計上費用を大きく逸脱したものではないと意見を述べた。各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

5. その他

島田理事が、学術集会の会場を予約が困難な状況を踏まえて、学術集会会長決定を4年先までにすべきとの意見を述べた。田口理事長が、次回以降の理事会で検討したいと回答した。

審議・報告事項

1. 2021年学術集会会長決定の件

田口理事長が、2021年の学術集会会長について1名の立候補であったため立候補を承認し、4月の評議員会にて選任すると報告した。

立候補者：根尾昌志（大阪医科大学 整形外科）

2. 第46回学術集会より：会計報告

島田理事が、独立監査人（公認会計士）の監査報告書を示して、収支報告書について説明し、理事会に諮った。一同意義なく収支報告書を承認した。

3. 学術集会プログラム等検討委員会より：第47回学術集会準備状況について

徳橋副理事長から依頼され、第47回学術集会会長である中村博亮理事が学術集会準備状況を説明した。採択演題数 1063 演題（採択率：69.6%）で、特別講演、パネルディスカッション、教育講演、指導医イブニングセミナー、ランチョンセミナー、アフタヌーンセミナーやモーニングセミナーを企画していることが報告された。

4. データベース委員会より：ACR・胸椎 XLIF、頸椎人工椎間板データベース現状報告

種市理事が、2017年12月から全国10施設でACR・胸椎 XLIF についてのデータベース登録を開始したと報告した。続いて、頸椎人工椎間板についても使用が開始され、同時に使用成績評価制度による厚生労働大臣指定の市販後調査も始まっており、販売開始1年後からは学会主導データベースに移行するべく準備を進める旨、報告した。

5. 国際委員会より：委員会からの報告等

中村雅也理事が、以下の報告を行った。

○ ATF（アジアトラベリングフェロー）

今年度のATFを12名選出したことと、ATFの提出書類のフォーマットを修正したことを報告した。

また、今後はオーストラリアとの連携も進め、フェローも検討したいと提案した。

○ EPA（イングリッシュアップスターアワード）

第47回学術集会の申請者の内訳は日本に留学している外国人4名、海外にいる外国人14名、日本人6名と格段に外国人が多くなったと報告した。

○ Spine Week 2020

シンポジウムを1つ企画すると報告した。

○ Spine World Summit

初めてインビテーションがあり、当学会から3名（田口理事長、国際委員会：中村雅也理事、松山幸弘委員長、）が出席予定であると報告した。

○ Spine Across the Sea (SAS)

波呂理事が会長で開催されるSASのホームページの案内や参加費について報告した。

○ 国際腰椎学会（ISSLS）

2019年に紺野慎一先生が京都で開催するので、周知協力とともにサポートもしていきたいと述べた。川上理事が、Spine Weekの2020年の会長に就任する予定があると発言し、中村雅也理事が連携を進めたいと提案した。

6. 英文誌編集委員会より：SSRR Editor in chief の交替について

根尾理事が、高橋和久委員から千葉一裕委員に Editor in chief の交替が 2018 年 4 月 1 日からとなったことを報告した。中村博亮理事が第 47 回学術集會中に査読件数の多い先生の氏名をスライドで掲示することを提案し、一同賛成した。

7. 指導医制度委員会より：H29 指導医審査結果および新規申請時の手術記録について

前田理事が、今年度の指導医審査結果を報告し、一同確認した。

また、今回の審査の折に新規申請者から提出される代表 30 症例が、コピーペースト可能な WORD の形式になっていることが散見されたため、来年度の募集要項で用いる「記入上の注意」に、以下のような下線部分を追加したいと提案し、一同承認した。

代表的執刀手術 30 例 手術記録

4 の一覧表に対応する手術記録(コピーでも可)を添付し、一覧表と照合できるよう通し番号を振る。

氏名 / ID などの個人情報は削除(ただし手術日時は審査に必要なため削除しない)したうえで、各病院形式の手術記録を提出すること。

8. COI 委員会より：COI 審査結果、その他過去 3 年間の申告に変更

前田理事が、11月の委員会議事録を提示し、提出すべきCOIを3年とする細則の変更や、ワーキンググループでもCOI提出が必要なメンバーについては、COIの提出を促す必要があると委員会内で提案があったことを報告した。各理事は、慎重に審議し、全員一致でこの提案に賛同し、COI委員会一任とした。

9. WEB 会員システム：会員へ送付する説明文の件

大川理事が、新年度から運用を開始する WEB 会員システムについて、会員へ送付する案内に掲載する主な内容や、カード決済ページの見本を示した。

10. その他

・新技術評価検証委員会より：委員会報告

岩崎理事が、委員会で検討した以下の事項について報告した。

○ XLIF のカダバーコース

従来ニューベイシブ社で行っていたカダバーコースに関して、2017 年 11 月以降については、学会がコースに介入して受講内容の検討や変更を行ない、受講証明書を発行していると報告した。

○ DePuy Synthes 社の新規スクリューの件

委員会で企業の担当者による新技術のプレゼンテーションを検討中であると報告した。

○ LIF の継続調査

昨年末から、今回で 3 回目となる LIF の継続調査を 2 月末まで実施することを報告した。

○ ニューベイシブ社の XLIF 再開後の現状

本技術を使用した昨年 1 年間の症例数は 1888 件であると報告した。

○ OLIF の不具合

OLIF 手術に関連して重大事故が発生したが、機器との関連性がないため、学会の関与は不要としたと報告した。

○ OLIF の安全普及対応案

OLIF でも XLIF 同様に添付文書を修正すべきか委員会で議論し、使用説明書の一部改定を行ったと報告した。

○ ニューベイス社の OLIF への展開

4月の委員会にて、企業側からプレゼンしてもらう予定であると報告した。

○ 頰椎人工椎間板ワーキンググループ

脳神経外科学会と完全に合同で作業するのは困難な状況であり、それぞれでデータを作成し、すり合わせるのが現実的であると報告した。

・ Eメール理事会回答まとめ資料（前回理事会以降）

一同確認した。

・ 3月の理事会での検討事項

田口理事長が、名誉会員の推薦を受け付けるので、3月の理事会までに各自検討してほしいと依頼し、一同了解した。

以上

平成 30 年 1 月 19 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 田口敏彦

監 事 加藤文彦

監 事 松永俊二